

STOP！熱中症

令和元年5月～9月

クールワークキャンペーン

●実施期間：令和元年5月1日から9月30日まで（準備期間平成31年4月、重点取組期間令和元年7月）



以下の項目を確実に実施したか確認し、□にチェックを入れましょう！

重点取組期間（7月1日～7月31日）



- 暑さ指数の低減効果を改めて確認し、必要に応じ追加対策を行いましょ。
- 特に梅雨明け直後は、暑さ指数に応じて、作業の中断、短縮、休憩時間の確保を徹底しましょ。
- 水分、塩分を積極的に取りましょ。
- 各自が、睡眠不足、体調不良、前日の飲みすぎに注意し、当日の朝食はきちんと取りましょ。
- 期間中は熱中症のリスクが高まっていることを含め、重点的に教育を行いましょ。
- 少しでも異常を認めたときは、ためらうことなく、すぐに救急車を呼びましょ。

キャンペーン期間（5月1日～9月30日）

STEP 1

☐ 暑さ指数（WBGT値）の把握

JIS 規格に適合した暑さ指数計で暑さ指数を測りましょ。

STEP 2

☐ 暑さ指数を下げるための設備の設置 ☐ 休憩場所の設備

☐ 涼しい服装など

☐ 作業時間の短縮

暑さ指数が高いときは、**単独作業を控え**、暑さ指数に応じて**作業の中止、こまめに休憩をとる**などの工夫をしましょ。

☐ 熱への順化

暑さに慣れるまでの間は**十分に休憩を取り、1週間程度かけて徐々に身体を慣らしましょ。**

☐ 水分・塩分の摂取

のどが渴いていなくても**定期的に水分・塩分**を取りましょ。

☐ 健康診断結果に基づく措置

①糖尿病、②高血圧症、③心疾患、④腎不全、⑤精神・神経関係の疾患、⑥広範囲の皮膚疾患、⑦感冒、⑧下痢などがあると熱中症にかかりやすくなります。医師の意見を聞いて人員配置を行いましょ。

☐ 日常の健康管理など

前日の飲みすぎはないか、寝不足ではないか、当日は朝食をきちんと取ったか、管理者は確認しましょ。
熱中症の具体的症状について説明し、早く気付くことができるようにしましょ。

☐ 労働者の健康状態の確認

作業中は管理者はもちろん、作業員同士お互いの健康状態をよく確認しましょ。



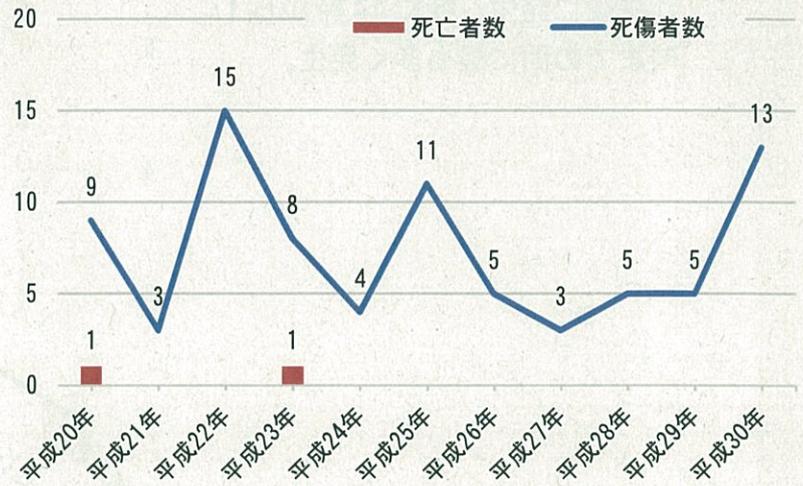
☐ 異常時の措置

～少しでも異常を感じたら～

- ・一旦作業を離れる
- ・病院へ運ぶ、または救急車を呼ぶ
- ・病院へ運ぶまでは一人きりにしない

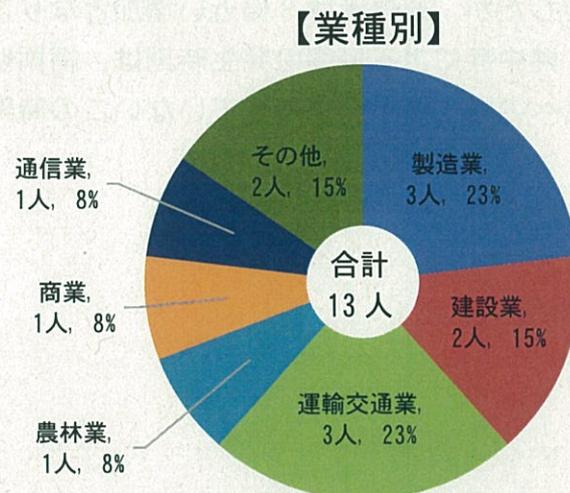
◇ 死傷者数の発生推移

- 平成30年の熱中症による休業4日以上死傷者は、前年より8人増加し、13人。死亡災害は、平成24年以降発生していない。

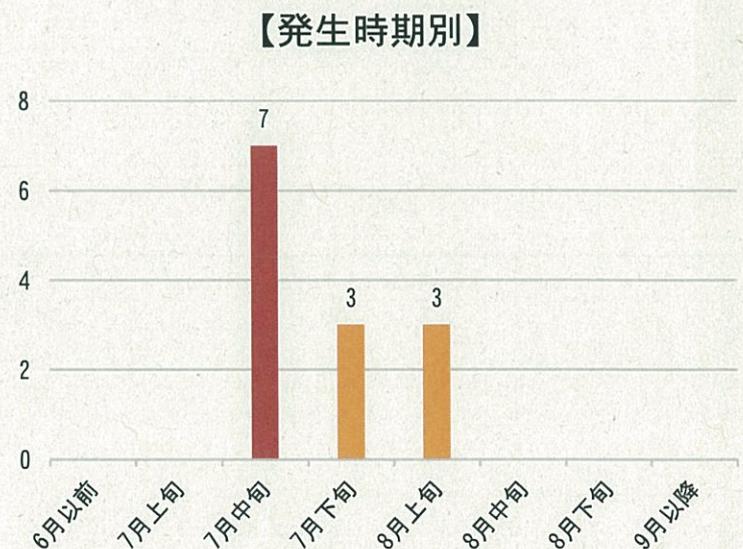


◇ 平成30年の県内の事業場における熱中症発生状況

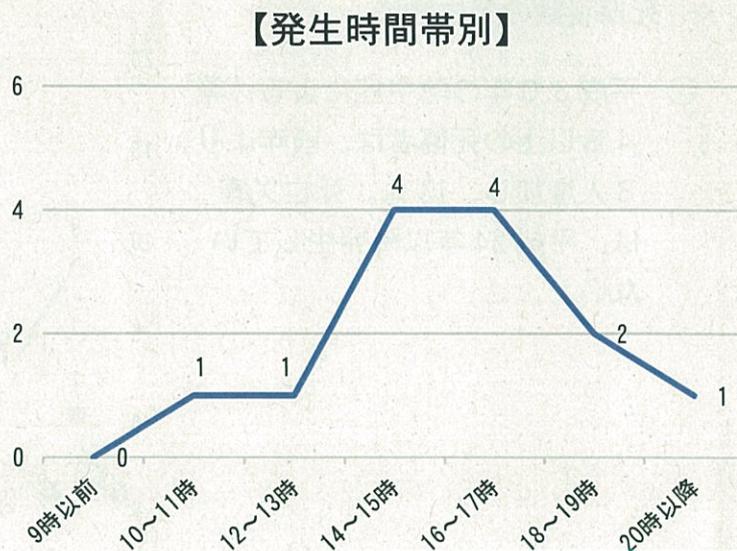
- 業種別では、製造業3人、運輸交通業3人、建設業2人、その他2人。



- 発生時期は、全体の4分の3の10件が7月に集中。そのうち、梅雨明けした7月9日直後の7月中旬に7件発生。



- 発生時間帯は、13件のうち12件が午後に発生。特に14時から17時までの間に最も多く発生。



平成30年の全国の熱中症による死亡者は28人、死傷者は1,178人となり、いずれも前年（死亡者14人、死傷者544人）の倍となりました。山口県下においては、死亡者はいませんが、死傷者は3倍近い増加となりました。

また、熱中症による災害の発生時期は、梅雨明けした7月中旬に最も多く発生しており、暑さへの順化が十分にできていないこの時期に熱中症による災害が多発しました。